博物館

東京理科大学 近代科学資料館
神楽坂1-3

近代科学の歴史を展示。建物は前身・東京物理学校の木造校舎を復元したもの。→P.14 C-3

宮城道雄記念館
中町35

「春の海」を作曲した宮城道雄の記念館。宮城が晩年まで過ごしたところ。→P.14 B-3

史跡

国指定史跡

江戸城外堀跡
飯田橋駅から四ツ谷駅付近

徳川家光の命でつくられた江戸城の外堀。江戸時代の面影を感じられる一帯。→P.14 D-3

区指定史跡

島村抱月終焉の地
横寺町9,10,11付近

島村抱月、松井須磨子が最期まで活動拠点とした芸術倶楽部がここにあった。→P.14 B-2

神社・仏閣

赤城神社
赤城元町1-10

古くから崇められる牛込の総鎮守。坪内逍遙らが境内で脚本の朗読などを行った清風亭という貸席があった。→P.14 B-1

善國寺
神楽坂5-36

約220年前に移転して来てから、街のシンボルとなった「毘沙門さま」。本堂の石虎は区の有形文化財。→P.14 C-2

区登録史跡

便々館湖鯉鮒の墓（光照寺）
袋町15

幕臣であり、牛込山伏町に住み活躍した江戸時代の狂歌師・便々館湖鯉鮒の墓。→P.14 C-2

若宮八幡神社
若宮町18

奥州を平定した源頼朝が、行軍中に願を立てた場所に鶴岡八幡宮を祀ってできた神社。→P.14 C-3

筑土八幡神社
筑土八幡町2-1

筑土とは土を築き立てた地という意味。庚申塔は江戸時代から知られたもの。石造鳥居は区内最古。→P.14 C-1

TOPICS

松井須磨子と芸術座

大正時代に一世を風靡した新劇女優、松井須磨子。出身は長野県だが、女優として華々しく活躍していた時代に最も縁が深かった場所は、現在の新宿区であった。

須磨子（本名小林正子）は、明治19（1886）年、信州松代町清野に旧松代藩士の五女として誕生する。明治35（1902）年に姉を頼って上京。明治42（1909）年には、文芸協会演劇研究所の第一期生となり、演劇にのめりこむようになる。研究所があったのは、現在の新宿区の余丁町。早稲田文学の創始者・坪内逍遙の自邸だった。

そこで講師をしていた島村抱月と出会ったのである。

明治44（1911）年、文芸協会の第1回公演「ハムレット」で須磨子はハムレットの恋人オフィーリア、さらに「人形の家」では主人公ノラを演じ、大好評を得る。舞台監督だった抱月に認められ、やがて二人は結ばれる。しかし妻がある抱月との恋は世間の非難を浴び、大正2（1913）年、須磨子は協会除名という厳しい処罰を受ける。同じく抱月も脱会し、同年、芸術座を旗揚げした。

島村抱月

芸術座の公演は次々と成功していったが、なかでも爆発的人気を博したのが、帝国劇場で上演された「復活」だった。ヒロイン役の須磨子が劇中で歌った「カチューシャの唄」のレコードは、当時2万枚の大ヒットとなる。そのお陰で、芸術座の活動拠点となる「芸術倶楽部」を、神楽坂上の現在の新宿区横寺町に建築した。

手と手を取り合い今日の演劇の礎を新宿の地で築いた二人であったが、その関係はあっけなく終わってしまう。大正7（1918）年、抱月がスペイン風邪で急死すると、2カ月後に須磨子が後追い自殺。自害した場所は、芸術座の道具部屋だったという。

現在、「芸術倶楽部」の跡地は、島村抱月終焉の地として新宿区指定史跡となっており説明板が立っている。須磨子の墓は、新宿区弁天町の多聞院にある。女優としての始まりも、抱月との出会いも、そして二人の終焉の地も新宿区であった。

松井須磨子の墓

写真協力：国立国会図書館

来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム

歴史と文化をめぐるぶらぶら散策

神楽坂編